令和6年度

外部評価

小規模多機能型居宅介護 サービス評価

小規模多機能ホームいづな

【様式集】

職員総人数 14 名（小規模多機能居宅介護事業所に従事する全職員対象）
※管理者除き（1 名未提出）

◆外部評価

外部評価（地域かかわりシート②）・・・・（地②-1～6）

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

《サービス評価表作成（提出）までの流れ》

- 個人評価 令和6年10月1日～令和6年10月20日
- 取りまとめ 令和6年10月20日～令和6年10月25日
- 事業所内報告 令和6年10月25日（いづな会議）
- 運営推進会議 事業所自己評価の報告と外部評価の依頼 令和6年11月5日
- 外部評価（運営推進委員による評価）の期間 令和6年11月5日～令和7年1月14日
- サービス評価全体の取りまとめ 令和6年1月14日～令和6年2月14日
- 全体の取りまとめを運営推進委員へ提出 令和6年2月14日
- 運営推進会議で最終確認 令和7年3月4日
- いづな全体会議で確認 令和7年3月21日
- 花巻市へ提出 令和7年3月31日

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員 (14名)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	3	8	7	2	2	1	2	0	

前回の改善計画

① 新規利用者受付時の事前情報について、伝達カンファレンス前に概要を大まかに把握する
 ② 伝達カンファレンスへの参加 (※参加が難しい場合、サービス担当者会議録を確認しながら参加した職員から内容のヒヤリングを行う。)

前回の改善計画に対する取組み結果

令和5年度より、新規利用者受け入れ時に伝達カンファレンスを開催し、受け入れの準備を行うための会議をもうけた。それにより、書面での事前情報だけではなく、本人の状況を文書と口頭で確認することができるようになった。職員全員が参加できるわけではないことから、参加出来ない職員は参加した職員から話を聞くよう取り組みを行ったが、その部分は現状改善はされていない。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 わからない	
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	6	4	7	7	2	2	0	1	0	
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3	3	10	8	0	2	0	1	1	
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	6	5	7	6	1	2	0	1	1	
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	5	7	5	3	2	1	2	0	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

新規利用者受け入れ時、事前情報に目を通し、カンファレンスに参加することでより、具体的なイメージを持って新規利用者の状況を把握することができるようになった。朝の申し送りや職員間で情報を共有することが昨年より密に行う事ができるようになった。それにより、利用者や家族へ、支援を行う時に配慮することができるようになった。情報やファイルを意識してみることができるようになった。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

ご利用者とご家族とゆっくり話をする時間が取れない。特にご家族との関係性を図ることが難しい。それにより、ご本人やご家族が抱えている不安等を把握することができなかった。伝達カンファレンスにできるタイミングがどうしても会わずに参加することができなかった。介護者の不安や要望を受け止めることができているかよくわからない。不足している部分は何なのか、自分でよくわからない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

① ご利用者だけではなく、日々の業務の中 (送迎時、訪問時、来所、電話など) でご家族と話を行い小さな関係性を積み重ねていく
 ② カンファレンス出席ができない場合、参加した職員から情報、またサービス担当者会議録を確認 (FTcare) する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員 (14名)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか?	4	2	6	4	3	6	1	2	0	

前回の改善計画

- ① 利用者のニーズを把握するために、ケアプランをケースファイルもしくは、FT-Care で確認し目標・ニーズを把握する。
- ② 会議やケースカンファレンスの場で、利用者に関する自分の意見を伝える「一会議一発言」

前回の改善計画に対する取組み結果

職員間で利用者のニーズを把握するために、何を見てよいのか理解していなかったため、改めて、ケースカンファレンスを毎月第1火曜（前後）に開催し、ファイルや FT-Care（電子カルテ）を開いてみる癖をつける様に取り組んだ。その結果、利用者（個別）のニーズやサービス内容などを元に具体的な支援の話し合いを重ねることができるようになってきた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？	3	1	7	7	3	3	1	3	0	
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	1	1	9	7	3	3	1	3	0	
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	0	1	9	7	3	3	2	3	0	
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	4	1	4	5	3	4	3	4	0	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

毎月ケースカンファレンスを行う事で、利用者の短期目標を把握し日々の支援に繋げることができるようになってきた。FT-Care やファイルを開いてケアプランを確認することで、目標やニーズを把握することができるようになった。それにより、利用者へ寄り添って、「何をしたいか」「どうなりたいか」を理解しようと思えることができるようになった。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

利用者の可能性を探っているが、明確なゴールが分かるか問われると不安がある。会議の中で、課題や困っている事を話しても、その後の振り返りができていない。会議の場で、聞いているばかりで「一会議一発言」がいまだにできない。利用者全員のファイルにあるケアプランを把握することが難しい。また、時間が無いため、見ることができない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① 利用者のニーズを把握するために、ケアプランをケースファイルもしくは、FT-Care で確認し目標・ニーズを把握する。
- ② 会議やケースカンファレンスの場で、利用者に関する自分の意見を伝える「一会議一発言」

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

3. 日常生活の支援

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分らない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	2	4	7	5	2	1	3	0	

前回の改善計画

①ご利用者、ご家族とのコミュニケーションを図る。ご利用者とのコミュニケーションについては、日々の支援の場で、短い時間でも気持ちにゆとりを持って落ち着いて話を聞く。目標としては、日々の『小規模での様子』、『自宅での様子』、『本人の意向』、『家族の意向』を中心とした会話を行う。ご家族については、送迎時、ご家族来所時など、短時間だとしても、コミュニケーションを積み重ねていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

日々の業務の中で、まとまった時間を取ってコミュニケーションを図る事が難しいことから、短い時間でも毎日の積み重ねでコミュニケーションが図れるよう、時間管理を意図とした目標設定とした。結果としては、日常生活の中で、介護を行いながらその中で声掛けの工夫等が見られる様になってきた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分らない	
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？	1	0	4	3	6	6	3	3	0	
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	7	5	6	7	0	0	1	2	0	
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	3	3	7	6	3	2	1	3	0	
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	7	5	5	7	1	2	1	1	0	
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	5	3	6	9	2	1	1	1	0	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

利用者のその日の状態に合わせた支援を行う事ができるようになってきた。具体的に、いつもと表情が違ったり、言動が違っていたりする時は、職員間で情報を共有し、必要であれば、主任やケアマネに報告し指示を仰ぐことも出来るようになってきた。家族が面会に来た時などは、積極的に声をかけ話をするよう意識することができるようになった。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

利用者と家族が、十分に情報交換をできていないために生じて起こる事に対応ができない。利用者の思いに寄り添うと家族が大変になってしまう等。落としどころが分からない。関りの中で、利用者の以前の暮らしを把握していない。その為に、会話の内容が浅いと思う事がある。何を話してよいか分からない事がある。ケースファイルを見ても、把握できる内容に限りがある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

① 短時間でもご利用者の傍につき添い心を通わせ（パーソンドケア）ご利用者と向き合う。
② 日々の業務の中で得た情報を職員間で口頭で共有するだけではなく、ケースファイルに赤ペンで追加記入を行い職員全体で共有することができるよう支援を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	0	6	3	3	7	1	4	1	

前回の改善計画

① 『できない事より、できること』『やらない事より、やってみる事』に着目し、『できない』から『どうしたらできるか』を常に意識し利用者と接する。
 ② 今年度に関しては、小規模多機能いづなを中心として、関連・関係性のある社会資源（フォーマル、インフォーマル）を学び覚えていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

利用者も職員も出来ない事について理由を考えるのではなく、先ずは何ができるのかを優先的に考え取り組み、その中からサービスの質の向上を意識して考えるよう取り組んでいく。結果としては、昨年度よりも色々な活動へ参加した事により、大変でも前向きに物事をとらえられることができるようになった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	3	0	7	9	2	3	1	2	1	
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	3	0	3	3	5	5	2	6	1	
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	0	1	5	3	6	8	1	2	2	
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	0	4	0	4	7	4	7	2	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

以前よりは「やってみる」「行動にうつしてみる」事に考え方をえることができるようになった。昨年より、送迎時や訪問時に、利用者の自宅を観察し、自宅での様子について考えることができるようになった。利用者との会話の中で、自宅での様子や過ごし方を意識して聞くようになった。聞いた情報を、職員間で共有も出来るようになった。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

地域の資源、社会資源がよく分からない。いまだに、地域と家族との接点がない。東和町にどのような社会資源があり、それがいづなとどのように関わっているのか分からない。以前より、利用者の数が多くなり業務に追われてしまい、利用者の自宅での様子、過ごし方を聞く時間が取れなくなっている。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

① 社会資源については、小規模に関係する資源（フォーマル・インフォーマル）より会議を通して職員間で学んでいく。
 ② ご利用者から情報収集を行い、その内容が事実だったのか等意識しながら内容を丁寧に確認する力をつける。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	前回の課題について取り組めましたか？	2	3	5	5	4	2	2	4	1	

前回の改善計画

- ① 簡単でも正確な、小規模多機能居宅介護事業所の説明を職員が話す事ができる。※事業所の契約書・重要事項説明書、事業所内研修で小規模多機能を理解する。
- ② 本人・家族・関係機関と積極的に会話を行っていく。（挨拶、利用者の日々の状態報告など）

前回の改善計画に対する取組み結果

小規模多機能で業務を行う為に、職員が自事業所のサービス内容を理解し、説明することができるようになることで、小規模多機能本来の力を発揮することができる。結果、小規模多機能という複雑なサービス内容を全て理解しなくても、最低限必要な知識を事業所で理解することができている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	1	0	3	4	7	6	2	4	1	
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	5	6	7	6	0	0	2	2	0	
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか？	7	7	7	6	0	0	0	1	0	
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	6	4	8	9	0	0	0	1	0	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 ・今までは、「デイサービス」と言っていたが、「通いサービス」と意識して伝えることができるようになってきている。小規模として、利用者に必要な量のサービスの調整は出来るようになってきている。利用者や家族の要望については、できるだけ対応するよう心掛けてきた。希望と要望にお応えすることができる事業所になってきた。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 小規模の特性をまだ理解していない部分が多くある。地域の資源が分からないため、自分たちで利用者を支えているのではないかと考えている。他の資源をどのように活用すればよいか分からない。
 小規模のサービスを家族は満足しているかもしれないが、利用者が満足しているとは限らないと思う。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① 小規模多機能で働く職員が小規模多機能を理解して働くことができるよう、小規模多機能の説明ができなければならないと考え、次年度も前回と同じ目標とする。（目標の継続）

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

6. 連携・協働

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	1	6	2	2	5	2	6	0	

前回の改善計画

- ① 東和町、土沢で開催される、イベント、祭り、清掃活動等へ参加を行う。
- ② 保育園、中学生、民生委員団体、老人クラブ等の団体へ、ボランティアや慰問、交流ができる事をアウンスし積極的に交流ができる機会を設けていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

東和町に『小規模多機能ホームいづな』の名前を知っていただく。この1点を目標として、昨年度より知己活動へ積極的に参加してきた。今年度の収穫として、清掃活動では、『いづなさんだ』と地域の方々に声をかけられる様になり、9/16 東和中学校との mini コンサートでは、生徒だけではなく、親御さんからも知られるようになってきた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分からない	
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	0	0	2	0	2	2	10	12	1	
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	1	2	0	2	1	11	12	1	
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	3	0	6	2	2	2	4	10	0	
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	0	4	1	3	1	7	12	1	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

前年度に比べ大幅に、研修会への参加、地域活動への参加を盛り込み、小規模多機能いづなの存在を少しずつ広めることができました。県立病院や東和地域包括支援センターの職員さんを知ることができただけでなく、東和病院に行った時も「いづなさんね」と看護師から声をかけられる様になった。民生委員さんとも気楽に話をできるような関係を築くことができました。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

研修によっては、業務で出られない場合があり、研修の内容によっては2回目があるわけではないので残念と思う。外部の研修に参加したいと思う。自治体や包括支援センターとの関りを持ったことが無いので関りが少ないと感じてしまった。施設に来るボランティアの受け入れを行った方がよいのではないかと感じた。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① (目標継続) 地域活動、研修については、昨年と同様の回数、内容を維持し、いづなと地域の結び付きを太くしていく。また、外部内部研修に参加することで、学びの喜びを感じ、資質向上を図るために継続を行う、

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

7. 運営

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	0	7	3	2	1	1	10	1	

前回の改善計画

① 運営推進会議へ参加（見学）を行う。※運営推進会議に職員自身が参加（見学）を行い、事業所を良くする取り組み、地域との関りを身近に感じる。参加が難しい場合、会議録は必ず確認する。

前回の改善計画に対する取組み結果

いづなの職員が運営推進会議へ傍聴として参加することで、運営推進会議がより身近で重要な会議である事をしていただき、日々の業務のモチベーションの1つとして理解する必要がある。結果としては、傍聴であっても職員が会議に参加する時間と調整が難しく、会議録を確認するという結果になってしまい当初の目的が果たされなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		分からない	
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか？	0	2	5	1	2	1	7	10	0	
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	1	0	7	3	1	5	4	6	1	
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	0	0	6	2	2	1	5	11	1	
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか？	3	0	3	2	4	3	1	9	2	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 他人ごとではなく、自身（事業所ごと）として、捉えることができるようになった。運営推進会議に参加することができなかったが、運営推進会議の会議録を読んで、運営推進委員の方々の貴重な意見を知ることができた。また、会議で話された内容が、事業所の運営に反映されているという事も理解することができた。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 意見や苦情が出た場合、自分では絶対に処理できないと強い不安を感じた。会議の内容が難しく理解できない。運営推進会議がどのような流れで進められているのか参加したかった。いづなの施設としての取り組みをご利用者、ご家族がどのように思っているのか？

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① 事業所のあり方については、来年度もいつなハンドブック（事業計画書）を確認しながら事業運営を進めていく。
- ② （新）ご利用者・ご家族に対しての満足度調査を実施し、事業運営に反映させていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		分からない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	1	7	3	2	0	1	10	1	

前回の改善計画

- ① 外部研修への積極的な参加（※研修案内については、職員へ周知を行い参加を促していく）
- ② 内部研修の全職員参加。※内部研修を二回に分ける等工夫して、全職員が参加できる体制を整える。
※介護保険事業リスク等検討委員会を通じて、リスクマネジメント研修会へ参加する

前回の改善計画に対する取組み結果

人材育成を目的とした、内部研修、外部研修を昨年度より多く設け一人でも多くの職員が参加できる機会を確保した。運営基準に従った研修を年8回以上もうけることにより、大幅に研修に参加する職員が増えた一方で、職員に係る負担も増えてしまった。事業所としてやらなければならないため、引き続き内部外部問わず研修の企画を行い職員の参加を促していく。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		分からない	
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	6	1	6	2	0	1	2	10	0	
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	0	3	2	2	0	5	12	1	
③	地域連絡会に参加していますか	1	0	2	1	2	0	6	13	3	
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3	0	5	3	0	1	4	10	2	

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

職場内の研修会にはできるだけ参加するように心がけている。外部研修に参加した職員から、研修の内容を聞いて、自分でも調べる様にしたり、研修の内容を把握するように、研修資料を借りて読むことができた。研修会が増えた事で、いままで「出づらかった」雰囲気が解消され、積極的に研修に参加できるようになった。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

リスクマネジメントがまだよくわからない。職場内研修は参加しているが、職場外研修に出た事がない。資格修得の研修にやる意欲がない。地域連絡会がなにか分からない。リスクマネジメントの取り組みが良く分からないためできているとは言えない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① 施設内介護事後の軽減を図るため、事業所内でのリスクマネジメント研修を実施。気づきハット（ヒヤリハットのデータ活用）を取り入れ、資質向上を図る。
- ② 外部研修に出やすい環境づくり。外部研修参加率60%を目標とする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月1日～令和6年10月18日

9. 人権・プライバシー

メンバー 小規模多機能ホームいづな 全職員（14名）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分らない	
①	前回の課題について取り組みましたか？	6	2	6	7	0	1	2	4	0	

前回の改善計画	
(介護事業リスク等検討委員会 主催) 高齢者虐待・権利擁護・身体拘束の内部研修へ年二回の全職員研修への参加を行う。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
法人内（運営基準）の高齢者虐待、権利擁護、身体拘束、事業継続計画に関する研修を各項目年数回研修として企画し、業務として研修への参加を位置付けている。現状、研修の必要性を感じていない職員も一定数存在していることから、次年度の課題として再検討が必要。	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている		なんとかできている		あまりできていない		ほとんどできていない		未記入 分らない	
①	身体拘束をしていない	7	6	7	6	0	1	0	1	0	
②	虐待は行われていない	12	11	2	2	0	0	0	1	0	
③	プライバシーが守られている	7	6	7	7	0	0	0	1	0	
④	必要な方に成年後見制度を活用している	0	2	2	2	2	0	6	9	4	
⑤	適正な個人情報の管理ができている	5	6	9	6	0	0	0	2	0	

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
本人のプライバシーに配慮した支援ができている。身体拘束、虐待についての法人内研修会に参加することができている。身体拘束や虐待について、研修後に職員間で情報共有を行い学んだことを実践することができていると思う。スピーチロックについて、強く意識して取り組んでいた。利用者へ不快にならないような声掛けを意識することができていると思う。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
成年後見人制度が分からない。後見制度をどの程度理解しなければならないか分からない。また、自分の業務にどの程度関与しているのか理解できないため必要性を感じない。利用者で後見人制度が、誰に必要なのかイメージできないため、理解していない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
① 『不適切ケア』について次年度は取り組み、言葉使い、利用者対応の資質向上を図る。研修内容にビジネスマナーを取り入れ、社会一般的常識を学ぶ。	
② 後見制度については、職員を選抜し外部研修を受講していただき、その内容を内部研修に取り入れる。	

外部評価 地域かかわりシート②（結果まとめ様式）

A. 事業所自己評価の確認

No.	項目	はい	いいえ	わからない
1	少なくとも常勤のスタッフが全員で事業所自己評価に取り組んでいることが確認できましたか？	9	0	0
2	事業所自己評価を作成する際、事業所の常勤スタッフ全員の意見が反映されていることが確認できましたか？ ※ただし、ミーティングの場面では常勤職員の2/3以上の参加が望ましい	9	0	0
3	前回の改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われていましたか？	6	0	3
4	今回の改善の必要な点が明らかになり、その改善計画が具体的に立てられていますか？	6	1	2

【上記4つのチェック項目に関する意見】

※結果ではなく、事業所自己評価に取り組んだ経過（姿勢）に対する意見

- ・全体で取り組んでいる姿勢が見られました。
- ・昨年に比べて、評価を意識して取り組んでいるのではないかと考えられました。

【前回の改善計画に対して意見】

※前回の改善計画に対しての取組み結果に対する意見

- ・会議や研修が増えているように思いますが、職員の負担は大丈夫でしょうか？
- ・事業所として、やらなければならないことが増えているので大変かと思えます。
- ・一部の職員しか外部研修に参加していないような気がしますが、来年度は一人でも多くの職員に外部研修に参加してもらえたら良いと思いました。

【今回の9つのテーマごとに記入された改善計画に対する意見】

※今回の改善計画が具体的かつ達成可能な計画になっているかについての意見

- ・以前に比べて、目標が具体的になったことで、いづなの方向性がわかるようになってきました。
- ・昨年度は、いづなさんが、地域に参加して活躍している場面があり、地域としても頼りがいがある施設になってきたのではないかと考えます。清掃活動やイベント本当にありがとうございました。

【「自己評価」をテーマにした自由意見】

- ・社会資源や後見制度を理解していない職員がいらっしゃいますので、来年度はそこに力を入れてもよいのではないかと考えました。
- ・内部研修に参加できない職員もいらっしゃいますので、そのような職員のフォローも検討されたほうが良いと思いました。

【改善計画】（※令和6年度継続）

- ・サービス評価について、全職員が何故この評価を行うのか？取組みの意義を理解し周知する。
- ・定期的に9項目の自己評価を会議の場を活用しながら執行状況を全体で確認し合う。

B. 事業所のしつらえ・環境

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	7	1	1
1	家族や地域の方が、事業所に入りやすい工夫がなされていますか？	8	1	0
2	事業所は、居心地がいい空間になっていますか？	8	0	1
3	事業所内・外に、不快な音や臭い等はないですか？	9	0	0
4	日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？	7	1	1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

- ・建物の外に、広報やポスターなどを張り出し、地域の人が情報に気が付きやすくなるのはどうか。
- ・今までは一部の職員を対象としたスキルアップ計画だったが、今後は全体のスキルアップを目指してほしい。
- ・何事にもチャレンジし常にアップデートする気持ちを持ってほしい。

【前回の改善計画】『・報酬改定の年度でもあることから、法人内、介護事業リスク等検討委員会を中心に「身体拘束」「権利擁護・高齢者虐待」「感染症」「リスクマネジメント」「BCP」を中心として、確実に研修を開催するとともに、研修への参加率を高め、職員全体で周知、資質向上を図る。』

- ・リスクマネジメント委員会を通して、取り組んでいるいることが定例会議で説明を受けていたので理解することができていた。
- ・改善計画内容の取り組みについて、どの程度職員が周知しているのか、BCPなども災害が発生した時に、どの程度対応できる分からない。

【「事業所のしつらえ・環境」をテーマにした自由意見】

- ・施設ないは、色々な展示物があり、利用者の日々の活動を行っているんだと分かる。
- ・施設も綺麗に整っていると思います。不快なおいも感じられません。
- ・昼寝の時間等は、皆さんは何処で休んでいますか？→各居室と午睡部屋で昼寝を行っております。
- ・いつ来ても、アットホームな感じの施設で、職員も挨拶ができていますので安心します。

【今回の改善計画】（※令和6年度継続）

- ・法人内、介護事業リスク等検討委員会を中心に「身体拘束」「権利擁護・高齢者虐待」「感染症」「リスクマネジメント」「BCP」を中心として、確実に研修を開催するとともに、研修への参加率を高め、職員全体で周知、資質向上を図る。

C. 事業所と地域のかかわり

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	5	2	2
1	職員はあいさつできていますか？	8	0	1
2	事業所は、地域の方に知られていますか？	8	1	0
3	何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？	7	1	1
4	事業所のスタッフは、地域の行事やイベントに参加していますか？	6	0	3

<p>【上記5つのチェック項目に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来所した時の職員の挨拶がとても良いと思います。施設に入りやすい雰囲気と感じています。 ・昨年より、ホームページを見るようになって、いづなさんの取り組みがとても分かりやすい内容となったと思います。 ・清掃活動にいづなさんが参加するようになり、地域の方々に良い噂になっています。職員も大変だと思いますが、それ以上に頼りにされる施設になってきていると思います。
<p>【前回の改善計画】『小規模多機能のPRに関しては、引き続き関係機関へアナウンスを行い、いつでもどこでも説明会ができるよう整える。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いづな職員が小規模多機能居宅介護事業所の説明を簡単でも説明する事ができるよう定期的に研修会を開催する。』 ・当法人の小規模、グループホームを積極的にPRしていく。 ・少しずつではありますが、小規模多機能居宅介護について説明する機会が増えてきた。大迫地域、県立東和病院、学生への施設見学の時など ・居宅介護への周知が今一つ伝わらないため、次年度の課題ではないか。
<p>【「事業所と地域のかかわり」をテーマにした自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源について、職員が理解できるようにまずは、東和町やいづなと関わりのある関係機関の勉強会で良いのではないのでしょうか？ ・昨年は、光の苑さんと共同で『東和中学校吹奏楽部 mini コンサート』を開催できて本当に素晴らしいと思いました。青空の下で、本当に地域と一体になったという感じです。いづなさんと光の苑さんがとても心強く感じました。
<p>【改善計画】（※令和6年度継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能のPRに関しては、引き続き関係機関へアナウンスを行い、いつでもどこでも説明会ができるよう整える。 ・いづな職員が小規模多機能居宅介護事業所の説明を簡単でも説明する事ができるよう定期的に研修会を開催する。 ・ホームページを活用し、当法人の小規模、グループホームを積極的にPRしていく。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	5	0	4
1	利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？	6	0	3
2	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議が行われていますか？	8	1	0
3	事業所の利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？	8	0	1
4	利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますか？	5	0	4

<p>【上記5つのチェック項目に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、清掃活動や東和中学校ミニコンサート、アートクラフト、成島和紙などたくさんの地域とのかかわりをいづなさんで行ってきているのを拝見することができました。本当に地域のために素晴らしい関わりを行っていると思います。 ・来年度も継続して行うことができるよう、お願いします。
<p>【前回の改善計画】『東和町、土沢で開催されるイベントへの参加。(お祭り、アートクラフト、町内の清掃活動、区の寄り合い)』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の苑さんとの東和中学校 mini コンサート開催はとても素晴らしかった。地域、三世代交流が達成できたと思います。 ・定期的なイベントを行い、それをホームページなどで取り上げ地域に発信できていると思います。
<p>【「地域に出向いて本人の暮らしを支えている」をテーマにした自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、たくさんの行事を行っているようなので、新たに追加となると職員も大変になるかと思いますが、地域のために頑張ってもらいたいと思います。 ・今年度おこなってきたことを、来年度もぜひ継続して取り組んでほしいと思いました。
<p>【改善計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に実施した地域活動の継続。(東和中学校 mini コンサート、清掃活動、駅前公民館清掃、アートクラフト、成島和紙ランプシェード展示) ・社会資源の勉強会の実施

E. 運営推進会議を活かした取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	8	0	1
1	運営推進会議では、事業所の取組みが解かりやすく説明されていますか？	8	0	1
2	運営推進会議では、地域の心配の方等の事例検討が行われていますか？	2	3	4
3	運営推進会議では、地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか？	7	1	1
4	運営推進会議で出た意見を、改善につなげていますか？	8	0	1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

- ・運営推進会議で話された内容などを、すぐに活かしていると思います。
- ・いづなのアピール方法を今後も皆で考えていければと思います。

【前回の改善計画】『・運営推進会議の場で、地域に関すること、協力できる事、心配な事について事業所内で取り上げ、微力でも協力できそうなことは積極的に対応し、関係機関と情報共有を行う。・事業所として、地域の相談を受け付ける事ができるよう環境を整える。』

・令和5年4月より、いづな独自の相談機関『い〜ずな』を立ち上げたが、相談件数は0件となった。積極的にアピールをしたわけではなく、次年度については、相談できる場所として周知を行う必要がある。(いづなより)

【「運営推進会議を活かした取組み」をテーマにした自由意見】

・防災訓練について、夜間想定訓練を集中して行っている様子がうかがえ、その中で、ご利用者をしっかり外の第1避難所まで誘導している様子が見られた。来年は、地域の方々も、避難誘導に加えることができれば、とてもよいと思います。

【改善計画】(※令和6年度継続)

・運営推進会議の場で、地域に関すること、協力できる事、心配な事について事業所内で取り上げ、微力でも協力できそうなことは積極的に対応し、関係機関と情報共有を行う。
・事業所として、地域の相談を受け付ける事ができるよう環境を整える。

F. 事業所の防災・災害対策

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	8	0	1
1	事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を知っていますか？	5	0	4
2	事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？	0	1	8
3	事業所の防災訓練に参加したことがありますか？	9	0	0
4	災害時、事業所は頼りになりそうですか？	6	0	3

【上記5つのチェック項目に関する意見】

- ・職員が一人夜勤で火災や災害がおきた場合の体制づくり→火災訓練時『光の苑』さんの職員も参加できるよう取り組んでみてはどうか。
- ・宿泊ご利用者への不安を緩和するための声かけを多くする。
- ・実際に火災が発生した場合、だれでも対応できるように訓練（避難、通報、消化）の徹底が必要と思います。そして、地域や他施設との協力体制の構築が課題なのではないでしょうか。
- ・火災、風水害、地震など今後はBCP（事業継続計画）と合わせて次年度は計画していく。

【前回の改善計画】『・夜間のワンオペレーター対応について、年2回の夜間想定防災訓練の実施、2ヶ月に1回事業所のみで防災訓練（シュミレーション）を実施する。』

- ・市の防災計画、事業所の防災計画、事業継続計画（BCP）と合わせて計画書の研修・シュミレーション・見直しを年2回実施する。
- ・運営推進会議を活用し、防災訓練にご利用者、推進員のメンバー、職員が参加することで、火災がおきた時のいづな職員の動きを観ていただく事ができた。

【「事業所の防災・災害対策」をテーマにした自由意見】

- ・近隣の住民にお願いして、避難訓練に参加してもらってもいかがでしょうか？
- ・夜間の対応について、ひとり夜勤である以上、地域の協力やお隣の「光の苑」さんの協力が必用であると思う。
- ・地域と「光の苑」さんとの協力をどのようにお願いしていくのか？
- ・日中については、夜間より人でのが多いのでご利用者の対応や避難も可能であると思われるが、夜間については、ひとりしかいない為、他の職員が迅速に駆けつける事ができるよう検討が必用と思われる。
- ・実際に、火災と分かって直ぐに駆けつけれる職員は何人いるのか？

【改善計画】（令和6年度継続）

- ・夜間のワンオペレーター対応について、年2回の夜間想定防災訓練の実施、2ヶ月に1回事業所のみで防災訓練（シュミレーション）を実施する。
- ・市の防災計画、事業所の防災計画、事業継続計画（BCP）と合わせて計画書の研修・シュミレーション・見直しを年2回実施する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利法人 ともにあゆむ会	代表者	理事長 佐々木 敬尚	法人・ 事業所 の特徴	法人理念に掲げてある「笑う、ほめる de 元気になる」は、利用者をほめて元気にする事、レベルを上げる事を目標に日々業務を行っております。そして、地域行事の参加や、施設のイベント等で利用者にとって楽しめる環境を作る事に重点を置き、家庭的な雰囲気与生活できる施設です。
事業所名	小規模多機能ホーム いづな	管理者	法人施設長 佐々木 貴洋		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	1人	1人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画（令和6年度）	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画（令和7年度）
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価について、全職員が何故この評価を行うのか？取組みの意義を理解する。 定期的に9項目の自己評価を会議の場を活用しながら執行状況を全体で確認し合う。 	<p>別紙参照 (事業所自己評価1~9参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業所で課題となっている内容について勉強していく。サービス評価で職員が特にできていない部分を研修し資質向上につなげていく。全員が周知できるよう考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価について、全職員が何故この評価を行うのか？取組みの意義を理解し周知する。 定期的に9項目の自己評価を会議の場を活用しながら執行状況を全体で確認し合う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 報酬改定の年度でもあることから、法人内、介護事業リスク等検討委員会を中心に「身体拘束」「権利擁護・高齢者虐待」「感染症」「リスクマネジメント」「BCP」を中心として、確実に研修を開催するとともに、研修への参加率を高め、職員全体で周知、資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度介護報酬改定より、BCPの全職員周知、身体拘束、権利擁護、感染症への研修や職員の意識改革に取り組んできた。※意識改革については、「このような内容があるという事をアナウンス、やらなければならないという伝達」 職員の中では、理解不足の職員もいることから、年間を通して、丁寧に指導をできる職員を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一度研修を行っても、継続的に研修や勉強、自己研鑽を行う必要がある。研修した内容を、現場でどのように活かしていく事ができるか検討する必要があるのではないか。 研修をしようとした時に、全職員が学ばなければならないと考えているかどうか？意識高いか低いのか？ 業務も大変な中でどのように勉強会を開催していくのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 法人内、介護事業リスク等検討委員会を中心に「身体拘束」「権利擁護・高齢者虐待」「感染症」「リスクマネジメント」「BCP」を中心として、確実に研修を開催するとともに、研修への参加率を高め、職員全体で周知、資質向上を図る。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能のPRに関しては、引き続き関係機関へアナウンスを行い、いつでもどこでも説明会ができるよう整える。 いづな職員が小規模多機能居宅介護事業所の説明を簡単でも説明する事ができるように定期的に研修会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所へ訪れた関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、県立東和病院）へ個別の形で独自の資料用いて説明を行う事ができた。 大迫町の一人暮らしの高齢者へ認知症の講和を兼ねながら、小規模多機能について説明会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に小規模の説明（講和・研修）ができる事を地域にアナウンスしていく必要がある。 改めて、小規模多機能についての（単独の）説明会を開催するのはどうか？ 事業所の職員が小規模を理解しているかどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能のPRに関しては、引き続き関係機関へアナウンスを行い、いつでもどこでも説明会ができるよう整える。 いづな職員が小規模多機能居宅介護事業所の説明を簡単でも説明する事ができるように定期的に研修会を開催する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、ホームページを開設し、当法人の小規模、グループホームを積極的にPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の職員が外部で小規模について簡単でも説明できるかどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用し、当法人の小規模、グループホームを積極的にPRしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・東和町、土沢で開催されるイベントへの参加。(お祭り、アートクラフト、町内の清掃活動、区の寄り合い) ・「光の苑」とのコラボレーション企画を検討。 ・外部講師(地域包括支援センター)をお招きし、社会資源についての研修会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『東和中学校 mini コンサート』『清掃活動(年3回)』『駅前公民館清掃』『アートクラフト参加』『成島和紙ランプシェード展示』ができたことにより次年度も継続で行うことができるよう、地域との関係をより太く築くよう実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東和中学校のミニコンサートは大変すばらしかった。光の苑さんと協力して行うことがとても良いと思う。 ・来年度も継続してしてほしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に実施した地域活動の継続。(東和中学校 mini コンサート、清掃活動、駅前公民館清掃、アートクラフト、成島和紙ランプシェード展示) ・社会資源の勉強会の実施
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、地域に関すること、協力できる事、心配な事について事業所内で取り上げ、微力でも協力できそうなことは積極的に対応し、関係機関と情報共有を行う。 ・事業所として、地域の相談を受け付ける事ができるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で話題になった内容に関しては、全職員へ会議録として周知し、事業運営に取り入れる事も出来た。 ・職員も運営推進会議がどのように行われているかわからない職員もいるため、可能な限り、職員の会議の傍聴参加を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議でできた改善点や要望等を直ぐに取り入れ、事業に活かす努力をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、地域に関すること、協力できる事、心配な事について事業所内で取り上げ、微力でも協力できそうなことは積極的に対応し、関係機関と情報共有を行う。 ・事業所として、地域の相談を受け付ける事ができるよう環境を整える。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間のワンオペレーター対応について、年2回の夜間想定防災訓練の実施、2ヶ月に1回事業所のみで防災訓練(シュミレーション)を実施する。 ・市の防災計画、事業所の防災計画、事業継続計画(BCP)と合わせて計画書の研修・シュミレーション・見直しを年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施した防災訓練は、2回ともに夜間想定訓練を実施。今年度は、運営推進委員の方々に実際に訓練している状況を見学していただき、会議の場で評価をいただいた。 ・ワンオペレーターであるため、隣接している、他法人とも防災について協議を行い次年度については共同開催も視野に入れ話し合いが前進する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を事業継続計画で行う「地震、風水害」も併せて訓練を行うべき。 ・隣の光の苑さんと協力体制を取るべきではないか。特に夜間は、ひとりで対応するため、日頃より光の苑さんとの交流が必須だと思います。 ・特にも夜間については、より具体的な対応をまとめ、職員全員が出来るように訓練する必要があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間のワンオペレーター対応について、年2回の夜間想定防災訓練の実施、2ヶ月に1回事業所のみで防災訓練(シュミレーション)を実施する。 ・市の防災計画、事業所の防災計画、事業継続計画(BCP)と合わせて計画書の研修・シュミレーション・見直しを年2回実施する。